

# TT通信

2021 | 冬  
第6号

発行責任者  
田中達也  
香川県三豊市詫間町詫間 3905-3

特集

請願・陳情を学ぼう

## 活動報告

9月議会 一般質問

12月議会 一般質問

ここが**気**になる!!

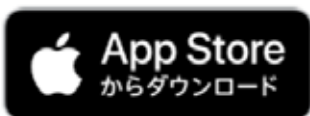
三豊市の次期選挙は？

デジタル商品券計画

2021年もTTの年！  
っていうか、この方式（Twenty-Twenty-one）でいけば、  
あと9年いける…  
というわけで、今年もしっかり頑張ります。

## 接触確認アプリ（COCOA）を使おう 今すぐできる**新型コロナ対策**

iPhoneの方はこちら



Androidの方はこちら



これまでの**3年間**を振り返って

早いもので、一期目4年間の内3年が終わりました。  
これまでの期間は、私の得意分野であるICTを中心に、三豊市への提案を繰り返し行ってきました。

新人ゆえの拙さが多々ありつつも、結果につながる手  
応えを感じており、**デジタルファースト宣言をした山下  
市政の取り組みを監査し、改善提案するという点**におい  
ては、**私が適任である**と自負しています。

また、時代に合わせて議会という組織が変わるべきで  
あるとの考えから、「議会改革」について学ぶことに多  
くの時間を割いてきました。

コロナ禍で開催できなかった議会報告会も、オンライン  
に方向転換していれば、問題なく開催できたはずで  
す。未来のことを取り決めていく議会が、**過去にタイムス  
リップ**ではいけないのです。

## コロナ禍・鳥インフルエンザについて

三豊市に住む私たちは、これらの目に見えない敵にど  
う立ち向かってゆけばよいのでしょうか。議員として支  
援策の情報提供や相談対応以上にできることがなく、市  
民の皆様から「コロナや鳥インフルエンザの関係で忙し  
いんでしょう」と声をかけられるたびに、はがゆい思い  
をしています。

わずかな成果ですが、一般質問をしたことにより、「**接  
触確認アプリ（上記）」と「かがわコロナお知らせシス  
テム」**から**接触ありの通知を受けた場合に、市の費用負  
担で検査が受けられることになりました**ので、是非多く  
の方に導入していただきたいと思えます。

## これから何ができるのか

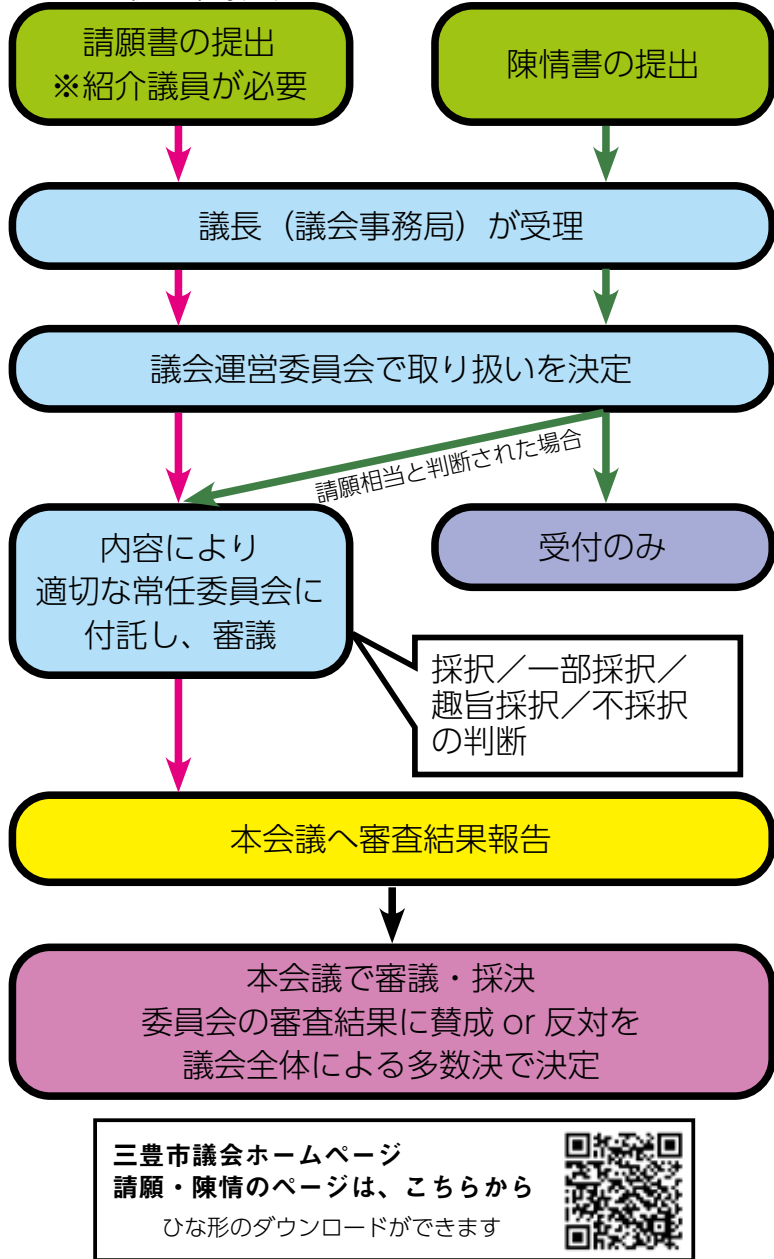
今後は、市の財政も厳しくなることが予想されるた  
め、アフターコロナの市政がどのように組み立てられる  
のか、注意深くチェックする必要があります。

特に、どんな困りごとがあるのか、公共施設の再配置  
をどのように進めていくのか、讃岐造船跡地の活用方法  
はどうなるのか、これらに対する市民の皆様のご意見を  
確認したうえで取組んでいきたいと考えています。

この状況下では、**オンライン開催にせざるを得ません  
が、こまめに機会を設けますので、是非ご参加ください。**

請願・陳情の流れ

ひな形は市議会ホームページからダウンロード



市議会には、市政に関することについて、市民から直接市議会に要望することができる「請願」と「陳情」という仕組みがありますが、これについて皆さんほどの程度知っていますでしょうか。

このことを紹介しようと考えた背景には、私なりの反省があります。それは、私を含む6人が紹介議員となり、令和元年6月議会に提出された請願「三豊市詫間地区の再開発及び整備促進に関する件」が【一部採択】となってしまったことです。

本来なら【採択】か【不採択】で決するべきところが、例外的措置である【一部採択・趣旨採択】となったのは何故なのか、是非皆さんにも知っておいてほしいのです。請願が採択される基準は、

① 願意が妥当であること

② 当該団体（三豊市）の権限に属する事項であること

③ 実現の可能性があること

とされています。この②は、国や県の権限に属する内容が含まれていると採択できないことを表しています。基準外の内容を含んだまま提出したことは、紹介議員として勉強不足だったと痛感しています。

同じような理由で、西部養護学校親の会から令和2年12月議会に提出された「陳情書障がい者を社会全体で支え合う共生社会の実現に向けて」が請願同様の取り扱いとされた上で【趣旨採択】となっています。※陳情なので紹介議員なし

採択できない内容が含まれているが、願意は妥当であるため不採択とするには忍びないという理由から、【一部採択・趣旨採択】という手段がとられるのです。

逆に、同時期に提出された「選択的夫婦別姓制度導入等を求める意見書の提出を求める陳情書」は、【採択】となりました。市の権限にないことを「やってほしい」

採決結果の種類

採決結果	解釈
採 択	請願の趣旨を妥当と認め、議会として願意実現をはかることを決定すること。
不採 択	請願を議会として取り上げないこと。
一部採 択	請願の一部を採択すること。 採択できない部分は審査未了とするか、不採択とする方法がある。
趣旨採 択	請願全体には賛成できないが、その趣旨、考え方には賛成である場合、その趣旨を採択すること。 どちらかという採択に近いものになるが、議会として積極的に願意実現を求めることにはならない。

ではなく、国に「意見書を提出してほしい」だったから採択が可能だったのです。

議会が請願を採択すると、その内容は執行機関（市長）に送付され、執行機関は誠実に処理することが求められています。そして、議会にはそれがどのように取り扱われているのかを引き続きチェックすることが求められます。それだけに、議会としては慎重に審査し採択すべきかどうかを判断しなければならず、実現不可能なことや権限外のことに、安易に採択を出すことはできないのです。また残念ながら、採択できるように読み替える（やっ

てほしいを要望してほしいと解釈する）というような融通も利きません。

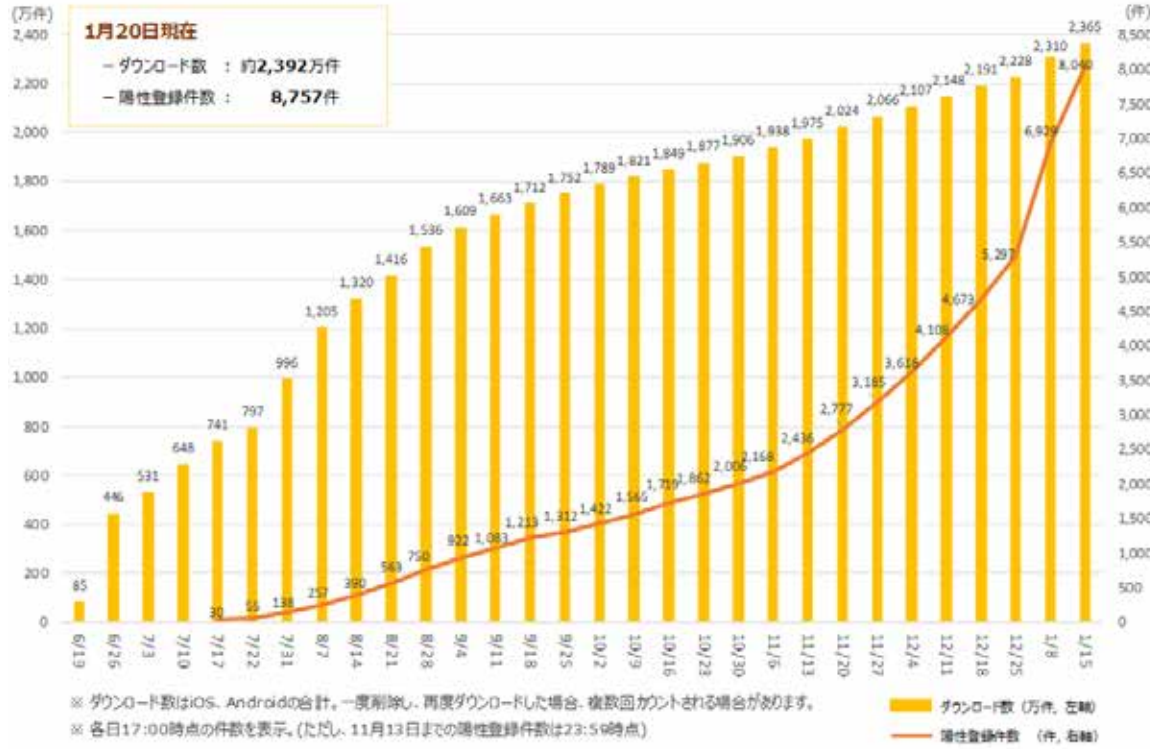
ですので、皆さんが請願・陳情を行う際には、その書き方について、事前にご相談いただきたいと考えています。有効な仕組みですので、より効果的に使っていたできるように、是非お手伝いさせて下さい。



新型コロナウイルス感染症対策としての「接触確認アプリ」と「かがわコロナお知らせシステム」の普及促進について

表紙にも掲載している、厚生労働省が提供する接触確認アプリ（通称COCOA）は、匿名で感染者と接触があったことのみが確認できるスマートフォン用のアプリ

【接触確認アプリ】ダウンロード数・陽性登録件数の推移



りです。

アプリ利用者同士が1メートル以内の距離にいて15分以上経過したとき、個人を特定する内容を含まない相手端末の情報をも自分のスマホに記録。後に記録した相手が陽性者登録をした際、陽性者と接触があった可能性が通知されます。

メディアによって、陽性登録者数が3%弱と少ないことや、陽性者登録に必要な処理番号を発行する保健所業務の不備などが報道されたことにより、役に立たないというイメージがあるようですが、システムとしては極めて有用だと私は考えています。

たとえ三豊市内という限られたエリアであっても、普及率・陽性者登録率が上がっていくことで十分に効果が得られるものです。

また、香川県が提供している「かがわコロナお知らせシステム」は、LINEアプリを活用し、感染者が訪問した店舗・イベント等に訪問した人に対し、感染者との接触の可能性をお知らせするものです。

一般質問では、これらのシステムを普及させるにあたり、何らかのインセンティブは考えないのかと問いました。

市からは、アプリから通知を受け取った方に対して、永康病院等で面倒な手続きなく、公費負担により抗原検査を実施するとの回答が得られました。

三豊市内でも繰り返し感染者発生が報告されており、十分な対策が必要です。しかしそれは地域経済に深刻なダメージを与えるものであるべきではないと私は考えます。

必要な活動はしながらも、感染者との接触の可能性をいち早く感知し、感染拡大を封じ込める手段となり得るこれらの仕組みを普及させることが、地域にとって必要なのではないでしょうか。

多くの市民に導入してほしいと、心から願っています。

ここが気になる!!

三豊市の次期選挙は?

三豊市長の任期は今年12月23日、市議会議員は来年2月11日に満了となり、約1年後には選挙を迎えます。前回の選挙は、前市長が在職中に死去したため、市長選・市議選が別々に執行されました。次回は、市長と市議の任期満了の間が90日以内であることから、公選法の「90日特例」を適用し、同日選挙を行うことができます。市選管は、12月議会の一般質問への答弁の中で、同日選挙を行う方針を明らかにしました。期日は、市長任期満了日時から市議任期満了日間の間とし、9月に決定する見通しです。

デジタル商品券 (計画) について

1月12日開催の総務常任委員会調査会において、産業政策課から「プレミアム付き三豊市商品券事業」の方針が示されました。

新型コロナウイルスの影響を受けた市民生活への経済的支援と、消費喚起による市内商業の活性化を目的とし、従来の紙の商品券(商工会発行)に加えて、QR決済を採用してのデジタル商品券を発行し、接触機会の低減と地域のデジタル化を推進することです。

プレミアム率は紙5%、デジタル15%とし、有効期間は令和3年8月〜翌1月、購入上限額はプレミアム分を除いて5万円とする予定とのこと。

また、観光需要回復を目的とし、宿泊かつアプリ登録をしてくれた四国および岡山県在住者を対象に、プレミアム率20%の商品券の発行も予定しています。

ここで注目すべき点は、プレミアム分が市外に流出することの無いよう、加盟店のみで利用することができるQR決済サービスを導入する点と、加盟店には3〜3.5%程度のQR決済手数料が発生するという点です。

導入後は、システムに機能を追加しながら、地域ポイントの導入による「地域経済の活性化」、マイナンバー連携による給付のスピード化、アプリを通じた効果的情報発信とファンづくりを展開したい考えとのこと。

皆様からのご意見を伺いたい案件です。





## 12月議会 一般質問

### 公共施設における

### インターネット環境提供について

コロナ禍の今、多人数が何か所に集まる人数を減らしての開催やスポーツ大会であれば無観客試合など、多くの制約を受けています。

その為、規模を縮小して開催する行事に、自宅からでも参加したり、複数会場をつないで開催するために、オンライン配信を併用する「ハイブリッド型開催」の需要が高まっています。

またこの形は、移動困難者や遠隔地からの参加者向けにも有用であることが利用者に認識されたため、コロナ終息後も定着していくと考えられています。

三豊市で何らかの行事を開催しようとするれば、多くの場合、公共施設を利用することになります。

つまり、**今後は公共施設において、オンライン配信に耐えられる通信速度を持つインターネット環境の提供が望まれている**ということです。これは決して、低速な公衆WiFiでカバーできるものではありません。

また、多極分散ネットワーク型のまちづくりを目指す三豊市としては、市内の複数拠点を接続して市民向け行事を開催することも視野に入れておく必要があると考えます。

現在の三豊市では、市直営の施設では提供されておらず、指定管理者が運営するマリノウエーブ等の一部施設では提供されているという状況です。

市からは、施設を所管する部署と連携し、求められる環境や受益者負担調査研究を進め、できるだけ早期に判断するとの答弁がありました。



### 市民向けプッシュ型情報配信の導入について

令和元年12月と令和2年3月の議会でも、同じテーマの一般質問をしており、今回で3回目となります。

内容は、今後の自治体の情報発信は、住民が自分で選択したカテゴリ（セグメント）の情報、スマートフォンに通知される（プッシュ通知）「プッシュ型セグメント配信」でなければならぬというものです。

提案の成果もあつてか、令和2年9月議会の決算特別委員会において、執行部から「市民に対するプッシュ型情報配信について検討している」という発言があつたため状況を確認したところ、なんとセグメントなしのプッシュ配信が採用される可能性があるとのこと、これは軌道修正せねばと、急ぎ取り上げたものです。

**セグメントなしで幅広い情報がプッシュ通知されてくるなど、実質迷惑メールとなら変わりません。必要とする情報に限り通知されるから価値があるのです。**

セグメントには費用が掛かるとの答弁があつたので、金額を確認したところ、月額7万円程度とのこと。

**「いいじゃないですか。7万円掛けましょうよ!」**と伝えました。

既に教育委員会が小中学校の保護者向けに提供している配信システムは、まさにセグメント型プッシュ配信であるため、限られたセグメントの検証に活用すべきとも提案しました。

引き続き、良い形で実現するように働きかけていきます。

### その他の活動

ICTを活用した授業に対する先生方の苦手意識を和らげ、新しいことを楽しめるマインドセットを醸成することを目的とする講座が、日本財団の助成により無償で受けられるとの情報が入つたため、教育委員会に提案し、**市内26校の代表者に受講していただくことになりました。**

GIGAスクール構想で配備される「ひとり1台端末」が、子どもたちのために有効に活用されることを期待しています。



### TT通信を読んで下さる方へ

現在TT通信が届いていないという方、ご希望いただきましたら送付いたします。現在紙が届いている方で、データに変えてほしいという方も是非お申し出ください。郵送経費の面で非常に助かります。

### ▼申込サイト



お手続きは、田中たつやWebサイト、メール、お電話で承ります。



### 質問・感想・相談は

田中たつや Web サイト

<https://tt.mitoyoshi.com>

Email [tt@mitoyoshi.com](mailto:tt@mitoyoshi.com)

田中たつや事務所

三豊市詫間町詫間 3913-1

TEL 090-1004-4745



### 編集後記

今回の表紙は餅つきです。似合いますか？

さて、内容を振り返ってみると、相変わらずICTのことばかり取り上げておりますが、私の得意分野であると共に、デジタルファーストを掲げた三豊市にとって、必要なことであるという確信をもって取組んでいます。

「カタカナが多いぞ!」というお叱りもあるとは思いますが、あえてこれらの内容を皆様にご覧いただき、ご意見を賜ることで、三豊市がすばらしい街になるように努めてまいりたいと考えております。

引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

田中達也